

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-253242

(43)Date of publication of application : 30.09.1997

(51)Int.Cl.

A63B 53/04

(21)Application number : 08-090546

(71)Applicant : SUMITOMO RUBBER IND LTD

(22)Date of filing : 19.03.1996

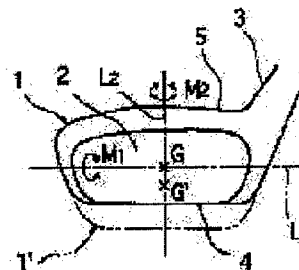
(72)Inventor : YAMAGUCHI TETSUO
SAJIMA TAKAHIRO
TSUNODA MASAYA

(54) GOLF CLUB HEAD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the performance of a wood type golf club head, surpassing the conventional one, by reducing moment of inertia thereof.

SOLUTION: Weight is set to 150-250g. Depth of center of gravity is set to 25-50mm. If the depth of center of gravity is taken to be Xmm and the moment of inertia M1 in a vertical direction to be Ygcm², values of depth of center of gravity and the moment of inertia M1 in a vertical direction are set so as to satisfy such relationships as $20 \leq X \leq 50$ and $Y \leq 60X - 600$. The moment of inertia M2 in right and left directions is set to 2,000gcm² or more.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-253242

(43) 公開日 平成9年(1997)9月30日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 3 B 53/04

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 3 B 53/04

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平8-90546

(22) 出願日 平成8年(1996)3月19日

(71) 出願人 000183233

住友ゴム工業株式会社

兵庫県神戸市中央区臨浜町3丁目6番9号

(72) 発明者 山口 哲男

西宮市石在町3-4

(72) 発明者 佐々 隆弘

福知山市土師新町2-175-105

(72) 発明者 角田 昌也

明石市魚住町清水202-1-302

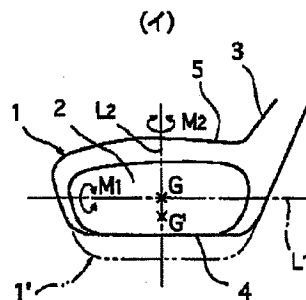
(74) 代理人 弁理士 中谷 武嗣

(54) 【発明の名称】 ゴルフクラブヘッド

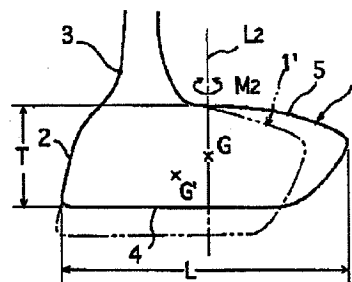
(57) 【要約】

【課題】 従来のウッド型のゴルフクラブヘッドの常識を破って、慣性モーメントを小さくすることにより性能を向上する。

【解決手段】 重量150 g～250 gに設定する。重心深度の値を25mm～50mmに設定する。重心深度をXmmとし上下方向の慣性モーメント M_1 を $Y \text{ g cm}^2$ としたとき、 $25 \leq X \leq 50$ かつ $Y \leq 60X - 600$ を満足するように重心深度と上下方向の慣性モーメント M_1 の値を設定する。左右方向の慣性モーメント M_2 を、 2000 g cm^2 以上に設定する。



(ロ)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 重量150 g～250 gのウッド型のゴルフクラブヘッドであって、重心深度をXmmとし上下方向の慣性モーメント M_1 を $Y \text{ g cm}^2$ としたとき、 $25 \leq X \leq 50$ 、かつ、 $Y \leq 60X - 600$ を満足するように上記重心深度と上下方向の慣性モーメント M_1 の値を設定したことを特徴とするゴルフクラブヘッド。

【請求項2】 左右方向の慣性モーメント M_2 が、 2000 g cm^2 以上に設定されている請求項1記載のゴルフクラブヘッド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ウッド型のゴルフクラブヘッドに関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、ゴルフクラブヘッドは、オフセンターショット——スウィートスポットを外したショット——に対しては、ヘッドの重心廻りの慣性モーメントが大きい方がヘッドの回転が少なく、方向性が良いと言われており、実際の実験結果でもその事実が立証されている。また、重心深度に関しては、一般に重心深度が深い方が方向性が良いと言われているが、その根拠は明らかではなかった。

【0003】そして、方向性に優れるゴルフクラブを提供するために、慣性モーメントや重心深度を大きくするという提案は以下に記すように数多く見られる。例えば、特公平4-55895号、特公平4-34330号、特公平5-76405号、特公平5-81465号、特公平6-23750号、特公平5-33637号、特開昭59-64167号、特開昭59-190268号、特開昭60-7849号、特開昭60-30258号、特開昭61-196768号、特開平3-13170号、特開平4-104874号、特開昭63-202976号、特開平4-327864号、特開平4-347179号、特開平5-67034号、特開平5-182004号、等に開示されたゴルフクラブヘッドが挙げられる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このように従来のゴルフクラブヘッドでは、慣性モーメントを(わざわざ)小さくするという着想が全く見付からない。さらに、重心深度をXmmとし上下方向の慣性モーメント M_1 ——即ち重心を通る左右方向の軸心廻りの慣性モーメント——を $Y \text{ g cm}^2$ としたとき、従来のウッド型のゴルフクラブヘッドは全て $Y > 60X - 600$ を満足する領域にあることを、本発明者等は見付けた。

【0005】即ち、図8のグラフ図に黒丸にて示すように、従来のゴルフクラブヘッドの重心深度と上下方向の慣性モーメントの関係を示す点a…は、 $Y > 60X - 600$ を満足する領域に分布することが、本発明者等が現在使用されている多数のゴルフクラブヘッドに関して、測定したところ判明した。

【0006】そこで、本発明は、上述のような従来のウッド型のゴルフクラブヘッドの常識を破って(全く着想点を変えて)、オフセンターショット時のキャリー(飛距離)の減少を防ぐ、性能の優れたゴルフクラブヘッドを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するために本発明に係るゴルフクラブヘッドは、重量150 g～250 gのウッド型のゴルフクラブヘッドであって、重心深度をXmmとし上下方向の慣性モーメントを $Y \text{ g cm}^2$ としたとき、 $25 \leq X \leq 50$ 、かつ、 $Y \leq 60X - 600$ を満足するように上記重心深度と上下方向の慣性モーメントの値を設定したものである。

【0008】なお、左右方向の慣性モーメントが、 2000 g cm^2 以上に設定されていることが好ましい。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、実施の形態に基き本発明を詳説する。

【0010】図1の(イ)(ロ)と図2に於て、1は本発明に係るウッド型のゴルフクラブヘッドの実施の一形態であり、2はフェース、3はネック部、4はソール部、5はクラウン部である。また、仮想線にて示す1'は従来の一般的なウッド型のゴルフクラブヘッドである。

【0011】しかして、本発明のゴルフクラブヘッド1は、ヘッド厚みTが小さく設定される。具体的には、ヘッド厚みTは37mm以下が好ましい。さらに、ヘッド1の重量を150 g～250 gとする。

【0012】また、前後方向のヘッド長さLを長く設定して重心深度(X)を大きくする。具体的には、重心深度(X)の値を25mm～50mmに設定する。ここで、重心深度(X)とは、フェース2のスウィートスポットから重心Gまでの距離のことをいう。なお、このヘッド1の重心Gは、従来のヘッド1'の重心G'よりも後方に位置する。

【0013】さらに、左右方向の慣性モーメント M_2 ——即ち重心Gを通る鉛直軸心 L_2 廻りの慣性モーメント——を、 2000 g cm^2 以上に設定する。

【0014】また、左右方向のヘッド幅をWとしたとき、 W/L の値を0.8以上かつ1.0以下に設定する。

【0015】また、重心深度をXmmとし上下方向の慣性モーメント M_1 ——重心Gを通る左右方向の水平軸心 L_1 廻りの慣性モーメント——を $Y \text{ g cm}^2$ としたとき、 $Y \leq 60X - 600$ を満足するように重心深度と上下方向の慣性モーメントの値を設定する。

【0016】即ち、図8に示すように、上下方向の慣性モーメント M_1 を縦軸にとり重心深度Xを横軸にとると、本発明のゴルフクラブヘッドは、(例えば①②③④の三角印にて示す本発明品の試作例のように) $Y \leq 60X - 600$ を満たす領域内($Y = 60X - 600$ を満たすグラフ

線A上乃至グラフ線Aよりも下側)に、分布する。

【0017】なお、ヘッドの重量が150 gよりも小さいと、ヘッド重量が軽すぎてボールに充分な初速を与えるのが困難であり、250 gよりも大きいと、通常の長さのウッドクラブとしてはヘッドが重すぎてヘッドスピードが遅くなる。

【0018】また、重心深度(X)の値が25mmよりも小さいと、中心をはずして打った場合の打出角、バックスピンの変化が小さくミスショットによるキャリーの減少をカバーする効果が少ない。重心深度(X)の値が50mmよりも大きいと、中心をはずして打った場合の打出角、バックスピンの変化は大きくなるが、現状のクラブヘッドの形状では製造上困難である。

【0019】左右方向の慣性モーメントが 2000 g cm^2 よりも小さいと、左右方向の球のプレが大きくなり好ましくない。重心深度(X)を深くする上では W/L の値が0.8以上である事が好ましい。また、 W/L の値が1.0よりも大きいと規制(ゴルフルール)に反する。

【0020】次に、図3と図4と図5は、他の実施の形態を示し、このゴルフクラブヘッド1は、中空のメタルウッドであって、厚み方向の中間部に重量を配分させる——上下方向の慣性モーメントを小さくする——ために、ソール部4及びクラウン部5の中央部乃至その近傍の壁部内側を凸状としたものである。つまり、ソール部4及びクラウン部5の中央部の壁内部に、凸部6、6を形成して、上下方向の慣性モーメント M_i を小さくしている。

【0021】また、ソール部4の凸部6を、ソール部4の周縁部の成す平面よりも、少なくとも3mm以上は上側に凸状とする。つまり、凸部6の深さ寸法Dを、3mm以上に設定する。

【0022】上述のように構成すれば、重心深度(X)を深くすることができ、かつ、上下方向の慣性モーメント M_i (Y)を小さくすることができる。

【0023】なお、クラウン部5については、凸部6を形成する以外にも、上方へ膨出状とすると共にその膨出する度合いを少なくする(より平面に近くする)も好ましく、あるいは、クラウン部5を平面としてもよい場合がある。

【0024】また、ソール部4に凸部6を形成し、かつ、クラウン部5を一般的なウッドクラブヘッドと同様に上方膨出状とするのも望ましい。また、ソール部4を一

般的なウッドクラブヘッドと同様に平坦状としてもよい。その場合、クラウン部5に凸部6を形成するか、又は、上方への膨出度合いを少なくするか、もしくは、クラウン部5を平面とすればよい。

【0025】図6と図7は、別の実施の形態を示し、重心深度(X)を深くし、かつ、上下方向の慣性モーメント M_i を小さくするために、高さ方向の中央付近の肉厚を大きくしたものである。具体的には、内壁面の高さ方向中央部に沿って突条10を突設する。これにより、上下方向の慣性モーメント M_i が小さくなる。

【0026】次に、本発明のゴルフクラブヘッドの効果を検証すべく実施したシミュレーション及び実験について説明する。

【0027】先ず、シミュレーションとして、有限要素法(FEM)により、ゴルフクラブヘッドのモデルとゴルフボールの衝突解析を行った。ゴルフクラブヘッドのモデルの条件は次の通りである。

【0028】

条件: 重心深度 : 30mm, 40mm
慣性モーメント: 上下、左右とも同じ値
バルジ : 無し
ロフト : 0°
モデルの形状 : 矩形一様断面の棒状

【0029】なお、スウィートスポットで打つ場合とスウィートスポットを左右に外して打つ場合について、計算を行った。その結果を図9と図10に示す。この図9と図10から、重心深度が大きい(深い)方が、スウィートスポットを左右に外して打った場合のボールのサイドスピン量とヘッドの左右ふれ角が大きくなることが分かる。このことから、重心深度が大きいほど、スウィートスポットを上下に外して打った場合のボールのバックスピン量と打ち出し角度の変化が大きくなるということが出来る。

【0030】

【実施例】次に、試作クラブを作成して実験を行った。具体的には、次の表1に示すように、本発明の実施例として、①②③④のゴルフクラブを作成し、かつ、従来例として、⑤のゴルフクラブを作成した。

【0031】

【表1】

	重心深度 (mm)	上下方向の慣性 モーメント(gcm ²)	左右方向の慣性 モーメント(gcm ²)	ヘッド重量 (g)
実施例①	40	1600	2640	202
実施例②	25	800	2010	194
実施例③	40	800	2480	200
実施例④	47	2000	2450	199
従来例⑤	30	1600	2420	198

【0032】なお、図8に示すように、①②③④のゴルフクラブは、前述の $Y \leq 60X - 600$ を満足する。また、⑤のゴルフクラブは、 $Y > 60X - 600$ を満足する。

【0033】しかし、上記①②③④⑤のゴルフクラブを、スイートスポットと、スイートスポットよりも*

*10mm上方の点と、スイートスポットよりも10mm下方の点にて打ったときのゴルフボールの打出角、バックspin、飛距離の測定結果を、次の表2に示す。

【0034】

【表2】

	スイートスポット			スイートスポットの上方10mm			スイートスポットの下方10mm		
	打出角 (度)	バックspin (r.p.m.)	飛距離 (m)	打出角 (度)	バックspin (r.p.m.)	飛距離 (m)	打出角 (度)	バックspin (r.p.m.)	飛距離 (m)
実施例①	11.5	2720	192.0	12.8	2580	195.3	10.2	3030	187.0
実施例②	13.0	2900	191.0	14.5	2680	198.0	11.3	3210	186.0
実施例③	12.6	2830	194.5	14.6	2570	199.0	10.1	3380	191.0
実施例④	12.5	2800	194.2	13.7	2630	197.2	11.1	3150	190.1
従来例⑤	12.8	2850	194.0	13.6	2780	195.5	10.1	2920	184.0

【0035】また、スイートスポットで打った場合に対するスイートスポットよりも10mm上方で打ったときの各測定値の変化量、及び、スイートスポットで打った場合に対するスイートスポットよりも10mm下方で打*

※ったときの各測定値の変化量を、次の表3に示す。

【0036】

【表3】

	スイートスポットの上方10mm			スイートスポットの下方10mm		
	打出角増加量 (度)	バックspin減少 量(r.p.m.)	飛距離増加量 (m)	打出角減少量 (度)	バックspin増加 量(r.p.m.)	飛距離減少量 (m)
実施例①	1.3	190	3.3	1.3	310	5.0
実施例②	1.5	220	4.1	1.7	310	5.0
実施例③	2.0	260	4.5	2.5	550	3.5
実施例④	1.2	170	3.0	1.5	350	4.1
従来例⑤	0.8	70	1.5	2.7	70	10.0

【0037】上記表2及び表3から、以下の事実が判明した。

(1) スウィートスポットよりも上方で打った場合：スウィートスポットで打った場合よりも、打出角は大きくなり、かつ、ギヤ効果によりバックspinは減少する。その結果、オフセンターショットによるボール初速の減少を補い、キャリーの減少を少なくすることができる。なお、打ち出されたゴルフボールの軌跡は、図11のグラフ図のようになる。

【0038】(2) スウィートスポットよりも下方で打った場合：スウィートスポットで打った場合よりも、打出角は小さくなり、かつ、ギヤ効果によりバックspinは増加する。バックspinの増加による揚力効果で滞空時間が長くなるため、打出角が小さくなることによるキャリーの減少を補うことができる。このため、飛距離の減少を少なくすることができる。なお、打ち出されたゴルフボールの軌跡は、図12のグラフ図のようになる。

【0039】なお、①と③のクラブの測定値を比較すれば明らかなように、上下方向の慣性モーメントが小さい方が、上記(1)(2)の効果がより顕著である。また、スウィートスポットの下方にて打った場合に於て、②と③のクラブの測定値を比較すれば明らかなように、重心深度が深い方が飛距離の減少量が小さくなる。

【0040】また、上記表3より、本実施例の①②③④のゴルフクラブによれば、従来例の⑤のゴルフクラブに比して、スウィートスポットよりも上方で打ったときの飛距離の増加量が、大きくなることが分かる。かつ、本実施例の①②③④のゴルフクラブによれば、従来例の⑤のゴルフクラブに比して、スウィートスポットよりも下方で打ったときの飛距離の減少量が、小さくなることが分かる。

【0041】従って、本発明のゴルフクラブヘッドによれば、スウィートスポットよりも上方と下方の何方で打った場合でも、従来品に比して飛距離が大きくなることができる。

【0042】

【発明の効果】本発明は上述の構成により、次のような*

* 著大な効果を奏する。

【0043】請求項1記載のゴルフクラブヘッドによれば、ゴルファーがスウィートスポットよりも上方でボールを打ったときに、従来のゴルフクラブを使用した場合に比して飛距離が一層増加する。また、スウィートスポットよりも下方でボールを打ったときに、従来のゴルフクラブを使用した場合に比して飛距離の減少を抑えることができる。

【0044】請求項2記載のゴルフクラブヘッドによれば、請求項1記載のものと同様の効果を奏すると共に、左右方向の打出角の振れを小さくできると共に、飛距離の減少防止に貢献できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の一形態を示す簡略説明図である。

【図2】平面図である。

【図3】他の実施の形態の正面図である。

【図4】他の実施の形態の側面図である。

【図5】図3のA-A線断面図である。

【図6】別の実施の形態の正面図である。

【図7】別の実施の形態の側面図である。

【図8】重心深度と上下方向の慣性モーメントの関係を示すグラフ図である。

【図9】有限要素法による解析結果を示すグラフ図である。

【図10】有限要素法による解析結果を示すグラフ図である。

【図11】スウィートスポットよりも上方で打った場合のゴルフボールの軌跡の説明図である。

【図12】スウィートスポットよりも下方で打った場合のゴルフボールの軌跡の説明図である。

【符号の説明】

2 フェース

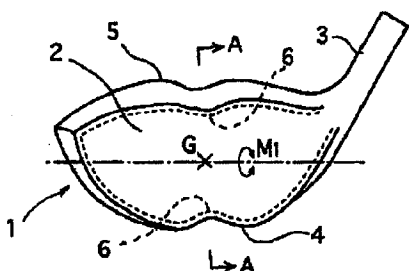
4 ソール部

5 クラウン部

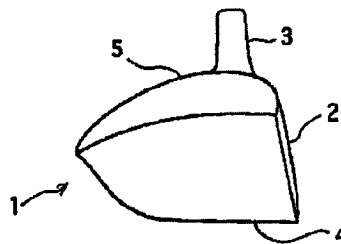
M₁ 上下方向の慣性モーメント

M₂ 左右方向の慣性モーメント

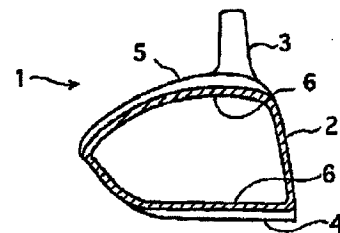
【図3】



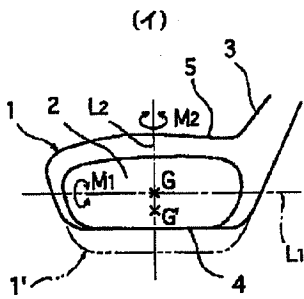
【図4】



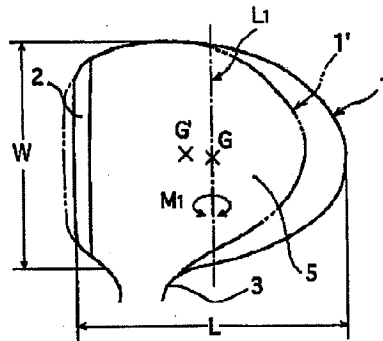
【図5】



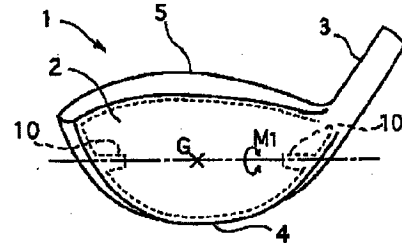
【図1】



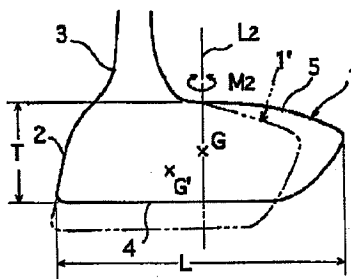
【図2】



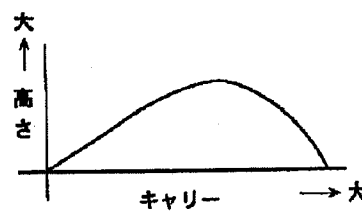
【図6】



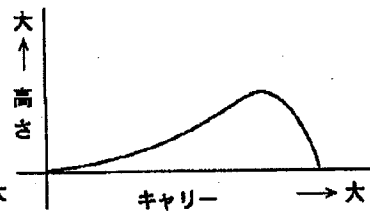
(ロ)



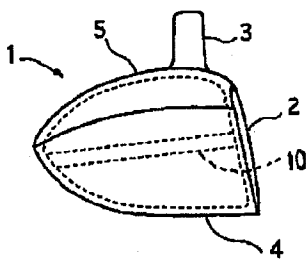
【図11】



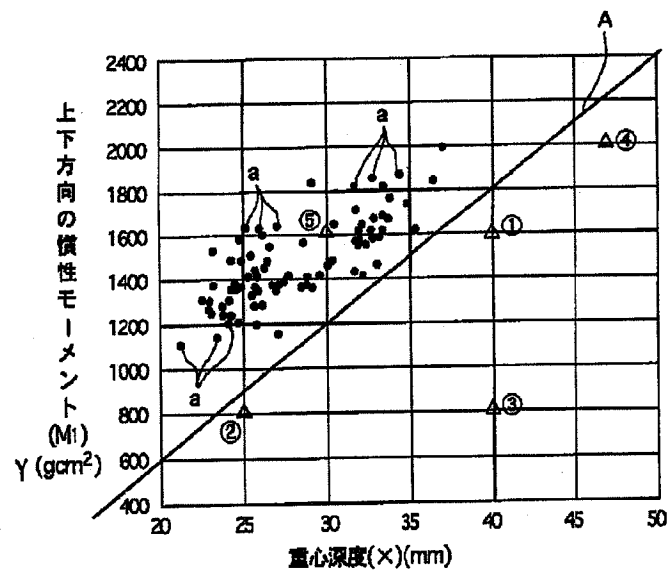
【図12】



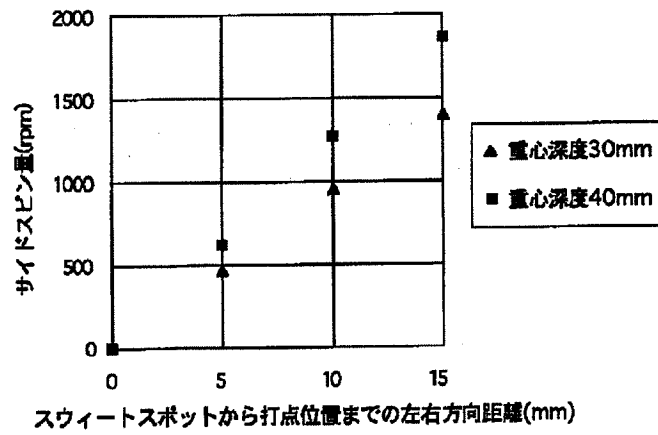
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

